

eitoeiko より、展覧会のお知らせです

江川純太・橋本悠希・村上早

二十六人とひとり

2016年3月12日～3月26日

eitoeiko では初の試みとなる芝居公演を開催いたします。俳優の峰崎亮介が自ら企画し演じる『二十六人とひとり』公演にあわせて、江川純太、橋本悠希、村上早ら三名の作家の作品による舞台空間を生み出します。1899年に書かれた『二十六人とひとり』はマクシム・ゴーリキイ(1868-1936)初期の傑作とされる作品で、散文詩による実験的な文章は現在においても新鮮な輝きを放っています。二十六人のパン焼き職人をひとりの人格として扱い、労働の日々の些細な事件から起こる劇的な感情の変化を描いた本作からは、ネット社会の孤独者の心の共有にも似た疎外感と連帯感にも通じています。19世紀末のロシアの地下室の暗闇に、21世紀のわれわれの姿を垣間見ることは、未来を考える上でもひとつの試金石となるのではないのでしょうか。また、同世代の画家ではワシリー・カンディンスキー(1866-1944)、セルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)など、多様な文化が花開いた頃の興味深い作品です。皆様のご来廊をお待ちしております。

『二十六人とひとり』公演について

ロシアの国民的作家であり、「浮浪者出身の作家」と呼ばれたマクシム・ゴーリキイ(1868-1936)。トルストイやチェーホフと並んで作家的名声を得るまでに数々の職を転々とし、その経験を元に多くの作品を残しています。その中でも初期短編の最高傑作と言われているのが本作、「二十六人とひとり」です。本作を1899年に発表し、その三年後、代表作となる「どん底」をモスクワ芸術座で上演。空前の成功を収め、作家としての地位を不動のものとなりました。「叙事詩」というサブタイトル、実験的な手法で現在でも評価の高いこの作品を俳優、峰崎亮介が演じます。演出は Théâtre MUIBO の田中麻衣子。会場となる神楽坂のギャラリー、eitoeiko にて日本初上演に挑みます。本展の開催に際しご協力をいただきました株式会社ポプラ社様とご後援をいただきましたロシア大使館様に、ここで深い感謝の意を表します。

江川純太(えがわ・じゅんた 1978年生まれ。神奈川在住)

多摩美術大学で日本画を学ぶ。2012年トーキョーワンダーウォール賞。2013年VOCA展出品。主な展覧会にアーティスト・ラボ(川口市アトリア 2014年)、From now on!!(藤沢市アートスペース 2015年)など。身体表現と素材の特性を結びつけた様々な抽象表現を試みている。弊廊にて毎年個展開催。

橋本悠希(はしもと・ゆうき 1988年生まれ。千葉在住)

武蔵野美術大学で版画を、多摩美術大学で陶を学ぶ。近年は古代日本の精霊を研究対象にした作品を制作している。Edge of Reality(eitoeiko 2015年)など。

村上早(むらかみ・さき 1992年生まれ。群馬在住)

武蔵野美術大学大学院で版画を学ぶ。2015年にFACE2015優秀賞、第6回山本鼎版画大賞、トーキョーワンダーウォール賞を受賞。力強い描線の銅版画を発表している。

江川純太・橋本悠希・村上早

二十六人とひとり

2016年3月12日(土)～3月26日(土)

ひとり芝居『二十六人とひとり』

作 マクシム・ゴーリキイ

訳 木村彰一

出演 峰崎亮介(みねざき・りょうすけ 1984年生まれ。東京在住)

早稲田大学卒業後、2年間のサラリーマン生活を経て新国立劇場演劇研究所に入所(7期修了)。主な出演作に、こまつ座「きらめく星座」、Kawai Project「から騒ぎ」、てがみ座「地を渡る舟」、こころで聴く三島由紀夫「道成寺」など。舞台を中心に活動をしている。

演出 田中麻衣子(Théâtre MUIBO)

音響 津田健太郎

宣伝美術 乗田菜々美

制作 eitoeiko

協力 株式会社ポプラ社

後援 ロシア大使館

公演日

3月12日(土) 19時

3月13日(日) 14時 19時

3月19日(土) 14時 19時

3月20日(日) 14時 19時

3月21日(月祝) 14時

料金 1,500円(税込)

※公演のご予約はお電話かメールにて。ご氏名と公演日程、人数をお知らせください。当日でもご入場いただけます。公演中は展覧会のみのご観覧はできませんのでご注意ください。

eitoeiko

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 32-2

東京メトロ東西線神楽坂駅矢来口より徒歩5分。矢来公園そば。

開廊 12時から7時 本会期中のみ無休

03-6873-3830

<http://eitoeiko.com>

ei@eitoeiko.com